



序文 年報発刊にあたってご挨拶

長崎大学第二内科教授 迎 寛

2019年の年報は河野 茂学長の書で、「有事斬然」という文字で昨年と同じ様に表紙を飾らせていただきました。この言葉の意味は「事が起これば、勇断をもって処理なさい」だそうです。まさに今回のコロナ騒動において重要な言葉と思います。

この原稿を書いているのは2020年の5月ですが、現在は、新型コロナウイルス感染症で日本を含めて、世界全体が大変な混乱ぶりとなっております。約100年前の1918年に起ったインフルエンザのパンデミックであるスペイン風邪に似た様な状況であり、医療現場でも凄まじい混乱が生じております。大学病院も同様に、講義は中止、最近ようやくオンライン講義、オンライン学位審査などがはじまりました。また入院や外来患者数もかなり減らして対応しており、今後を含めすごいインパクトであり、この様なことが起こるとは想像しておりませんでした。やはり感染症はいつになっても人類にとって手が抜けぬ相手だということを再認識させられました。この様な状況で、日本全体での対策や啓発活動を行なっている先生方の中心的な存在が第2内科の同門の先生方であることは本当に誇らしいことだと思います。また長崎県の新型コロナウイルス感染症に対して中心となって医療を行っているのも第2内科の先生方であり、本当に皆様には頭が下がります。さらに、朝長同門会会長を中心に第2内科の同門会の先生方が、最前線で活躍されながら、アルバイトもできていない様な状態の先生方をすぐにサポートして頂いた事は、他の同門会ではとても考えられないことだと思います。第2内科の同門の先生方のすばらしさを再認識させられました。医局を代表して心から感謝申し上げます。

さて、2019年も様々な医療制度改革に翻弄された1年でした。昨年からは始まった新しい専門医制度ではかなりの混乱が生じております。この制度により、研修医が終わって内科を選ばれた先生は内科専門医に向け専攻医登録評価システム(J-OSLER)を使用して自分が経験した症例の登録をする必要が生じており、負担になっています。また、時代の流れで現在減少傾向にある剖検も登録することが必要条件となっているなど、様々な加重が加わることで、内科全体の人気の低下が顕著です。県内の内科の先生方としっかり体制を組んで対応していますが、なかなか大変な状況になっております。また、シーリングが長崎県の内科に適応されたことも内科人気の低下につながっています(長崎県で内科専攻医数の制限が始まった)。長崎県は離島・僻地を抱え、今でも内科医不足が叫ばれているなか、逆行したことが行政では行われています。2024年までに医師も対策を行う必要がある働き方改革なども準備が必要であり、今

後も様々制度の変革に翻弄されることになりそうです。

医局に関してですが、2019年度は呼吸器内科に10名、腎臓内科6名の入局がありました。将来が楽しみであります。2020年度も呼吸器内科に6名、腎臓内科に5名の入局が決まり、この逆境の中でこれだけの数を確保できたのも、教員や医局員による学生や研修医に対する熱意ある指導努力と同門の先生方のサポートのおかげであると思っております。また、恒例である第二内科学会も7月と12月に行いましたが、7月には第2内科同門の長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍医学分野 教授の池田裕明先生に「遺伝子改変T細胞 ―がんに対する免疫細胞療法の幕開け―」と題した講演を頂きました。また、12月には第二内科学会に加え、3名の教授就任記念講演会と祝賀会を行いました。池田裕明先生には「がん免疫療法の躍進―新しいT細胞輸注療法の開発―」（座長 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座 免疫学分野 教授 鶴殿平一郎先生）、長崎大学病院 安全管理部 教授の栗原慎太郎先生には「なぜ医療安全をやっているのか？」（座長 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 新興感染症病態制御学系専攻 臨床感染症学分野 教授 泉川公一先生）、東京医科大学 微生物学分野 主任教授 中村茂樹先生には「これまでの20年とこれからの20年～臨床と研究の二刀流を目指して～」（座長 国立感染症研究所 真菌部部長 宮崎義継先生）と題した御講演をお願い致しました。河野学長が教授をされている間、多くの教授を輩出していますが、私の代でもこの様な同門の先生方の教授就任祝賀会をすることができて光栄なことと思っております。

今年の6月に予定していた、新入医局員歓迎会と学会は新型コロナウイルス感染症のために中止とさせていただきます。中止となったのは多分初めてのことだと思いますが、忘年会は何とかできればと願っております。その時には新しい医局員を是非歓迎していただければと思っています。他にも春には花見、夏には納涼船、秋から冬にはボーリング大会なども行なっておりますのでコロナ騒動が落ち着き、ご都合が合えばご参加をお願い致します。

最後に、今後も同門の先生方にはご指導・ご鞭撻のほどをお願いするとともに、皆様のご健勝やご活躍を祈念しながら、今回の第二内科年報の序文とさせていただきます。